

## 初任者研修講座・最

### 終回 記念講演

# 「教育の心、命の大切さ」



平成23年度倉敷市の初任者研修講座は、平成24年2月23日に第25回を迎えました。10期生80人の巣立ちの日となったこの日の研修は、オープン講座を兼ねた講演会で幕を閉じました。ここに講演内容の一部を紹介します。

### 「最悪を想定して、最善を尽くす」

最悪を想定しない人をプロとは言わない。人と向き合う仕事をする者には、相手がどんな時に攻撃を加えてくるかを想定し protection (保護) する方法を知っておく危機管理が必要。教育には、次の世代を育てるというミッションがある。善意を善意と受け取られるためには、危機管理が求められる。AMDAが今まで死傷者を出さずにやってこれたのは、この理念を大切にしてきたからである。



### 人間の絆・人間関係

人間関係には3つの種類がある。

- ①**フレンドシップ** (利害とは関係のない付き合い) 友人, 同級生など
- ②**スポンサーシップ** (一方的な利害がある関係) 親子, 師弟など
- ③**パートナーシップ** (良いことも悪いことも共有する関係) 夫婦など

最も危ういのは②の**スポンサーシップ**である。誰にでも他人の役に立ちたいという気持ちがある。だから、一方的な支援が長く続くと、援助を受ける側の尊厳が失われてしまう。援助を受ける側にもプライドがある。健全な**スポンサー**

**シップ**は、いつ解消されるかがはっきりとしている。AMDAは、いつ支援を終えるかを初めに相手に示す。東北支援に当たった際には「困っておられるから助けに来ました。いずれ、西日本が困ったら東北から助けに来てください。そのために、早く復興してください。」と、相互扶助を意識して話すようにした。助ける側より助けられる側、教える側より教えられる側の気持ちを考える。

### 3つの「よろこび」

- ①**自己実現の「よろこび」**…意欲と能力があれば、誰にでも自己実現のチャンスが与えられなければならない。
- ②**自己表現の「よろこび」**…「オタク」と呼ばれる人たちが市民権を得てきた。
- ③**感謝の「よろこび」**…「ありがとう」と言われると、自分は人から必要とされていると感ずることができる。

「よろこび」を知っている人は、人の「よろこび」が分かる。しかし、知らない人はコンプレックスや嫉妬を感じる。3つの「よろこび」は、学校や地域で身に付けていくものである。特に**フレンドシップ**の人間関係形成に身に付けるには、学校が適している。先生方はどう教えるかを考え、カリキュラムの中に位置づけてほしい。

### \*\*\* 受講者の感想 \*\*\*

- 「誰でも他人の役に立ちたいという気持ちがある。」という言葉をお聞きしながら、学級の児童の顔を思い浮かべました。「役に立ちたいと一方的に思っていることで、児童のプライドを傷つけているのではないか。」と問いかけられたような気がしました。1つでも多く、1分でも長く「自分は必要とされている。」と、児童が「よろこび」を感じられるような日々にしていきたく、心に刻みました。
- 人間を相手にする教師という立場からの見方をはっきりと示してくださった思いがしています。自分がどう振る舞い、どう子どもに接していくかが問われていて、自分を豊かにしていくことの必要性を強く感じました。